

# 泡ケアフォーム



## 【使用方法】

適量をプッシュし、使用したいところになじませ優しく拭いてください。使用後の水洗いの必要はありません。（食器、ブラシの洗浄の場合は軽くすすいでください。）

## 【使用上の注意】

- \* 目や鼻に入らないようにご注意ください。
- \* 傷や炎症のある部位、粘膜にはご使用にならないでください。
- \* 異常を感じた場合は使用を中止し、獣医師にご相談ください。
- \* 乳幼児の手の届かないところに保管してください。
- \* 天然成分の製品で防腐剤や安定剤などを使用していないため、時間の経過や気温の変化により、液が白濁、変色したり結晶化したものが浮遊、沈殿する場合があります。製品の効果や品質・安全性には問題ありませんが、沈殿した場合は時々振り混ぜてください。
- \* 保管される場合は、高温多湿の場所を避けてなるべくお早めにお使い下さい。夏場など気温が高い時は半量を冷蔵庫で保管するなど、常温保管分は、なるべく早く使い切れる量をおすすめします。
- \* ブラシや食器を洗浄される場合、素材により変色する場合がありますので、事前にご確認の上ご使用ください。

# ホホバラベンダーオイル



## 【使用方法】

シャンプー後やポイント洗い後など、皮膚を清潔にした後、ドライヤーなどでよく乾かし、乾燥、フケや痒みなど気になるところに薄く塗ります。毛の中に直接差し込んで使えるように、目薬型の容器に入っていますので、少量ずつ出して薄く塗り広げてあげてください。

1日に何回使用してもOKです。お腹や肉球などにも使っていただけます。

## 【使用上の注意】

- \* お肌の弱い子は特に、使用される前に皮膚の大丈夫そうなところでパッチテストしてから使ってください。
- \* 傷のある部分には使用しないでください。
- \* 異常が現れた時には直ぐに使用を中止し、獣医師に相談して下さい。

## 【オイルの特徴】

- ホホバオイル  
→犬の皮脂に非常に近く酸化しにくい。保湿、皮膚の保護作用。
- ラベンダーオイル  
→鎮静作用、リラックス作用、抗炎症作用。(皮膚表面の軽い炎症、痒みを抑える作用) 刺激が強くなく軽度のアトピー性皮膚炎にも使えます。

# ブラッシングケアスプレー



## 【使用方法】

- ① 使用前によく振り、目に入らないように被毛から 10 センチ程度離れたところから、被毛がしっとりするぐらいまでスプレーします。
  - ② 毛並みに沿って、毛先からもつれをほぐしながら優しくブラッシングし、次に毛並みに逆らって、ブラッシングすると、抜け毛がよく取れます。
  - ③ 顔には、手のひらにスプレーを吹き付けてから塗布してください。
- ※力を入れてブラッシングすると皮膚を痛めますので、皮膚にブラシが当たるか当たらないかくらい優しくブラッシングして下さい。

## 【使用上の注意】

- \* お肌の弱い子は特に、使用される前に皮膚の大丈夫そうなところでパッチテストしてから使ってください。
- \* 皮膚表面の軽い炎症を抑える効果はありますが、乾燥肌がひどい子には向きません。
- \* 傷のある部分には使用しないでください。
- \* 異常が現れた時には直ぐに使用を中止し、獣医師に相談して下さい。
- \* 保管される場合は高温多湿の場所を避けてなるべくお早めにお使い下さい。
- \* 夏場など気温が高い時は冷蔵庫での保管をおすすめします。常温で 1~3 週間を目安にお使い下さい。

## 【オイルの特徴】

### ●ハイブリッドオイル

→ひまわりオイル 100%。天然の乳化剤（油と水を混ぜる）。天然のため乳化力が弱め。そのため使うたびによく振ってください。

### ●ラベンダーオイル

→鎮静作用、リラックス作用、抗炎症作用。（皮膚表面の軽い炎症、痒みを抑える作用）刺激が強くなく軽度のアトピー性皮膚炎にも使えます。

# ブラッシングケアスプレーは、耳掃除にもお使いいただけます。

ホームケアでは耳介（外耳手前の目に見えているひだ部分まで）を優しくふくだけでも十分。

柔らかいコットンやガーゼなどに、ケアウォーターを染み込ませて、こすらないように優しく拭き取ります。この時、力を入れてゴシゴシしないように。

耳の皮膚はとてもデリケートで傷つきやすいので、やさしくそっと拭くようにしましょう。



## 【汚れている場合の耳掃除のやり方】

① ケアウォーターをコットンに含ませ、愛犬の耳に入れ、耳の根元を飼い主さんの指でつまんで何度か揉む。

② その後は汚れたコットンを取り出す。（汚れが完全にきれいになるまで何度もやりたくなりますが我慢！）その時、少しケアウォーターが耳に入っても大丈夫。

飼い主さんが手を放すと、愛犬がブルブルと顔を振った際に余分な液体が排出されるので心配いりません。ブルブルしない場合は、耳の奥に入っていないと思われるので大丈夫ですが、気になる場合は、耳にフーッと息を吹きかけるとブルブルしてくれるはずです。

濡れているのが気になる場合、入り口付近を乾いたコットンで優しく拭く。

もともと、犬の耳にも人間と同じように、中のごみ（異物）を外に押し出す力があります。そして耳垢は弱酸性で、殺菌作用・皮膚の保護作用があるため、通常は頻繁に耳掃除をする必要はありません。

**外耳炎の予防には、綿棒は使わない事が大切です。**

（こすることで耳の表面の皮膚が分厚くなってゴミを外に押し出す力が衰え

る。繰り返すと耳道が狭くなり、通気性が悪くなって菌が繁殖し、外耳炎を発症しやすくなる)

特に何も症状が見られなければ、何もケアをしなくても大丈夫です。

けれども、日本のように多湿な気候の環境で暮らす犬の耳は、湿気で蒸れて雑菌が繁殖しやすいため、**お耳が汚れていれば月に1~2回程度**は耳掃除をしておくほうがよいでしょう。**健康な耳の子の場合なら、何もしないか、1ヶ月に1回程度**、正しいケア方法でケアしてあげるのも十分です。

✕ 乾いたティッシュペーパー

✕ 人間用の赤ちゃんのお尻拭き

✕ アルコール入り除菌ウェットティッシュ

▲ 市販の耳掃除用シート

▲ 市販のイヤークリーナー

など代用したくなるかもしれませんが、皮膚への刺激が強いこと、成分の問題から**✕印のものは犬の耳への使用は控えて下さい。**

▲印→市販されている耳掃除用のシートや市販のイヤークリーナーもありますがデリケートな耳の皮膚は、植物由来の天然成分を使用したもの、化学成分を使っていないものがより安全です。